

No. 374【2019年9月20日配信】

国指定史跡 高屋敷館遺跡 (担当:児玉)

こんにちは。文化財課の児玉です。

平成13年から保存・整備を進めて参りました「国指定史跡 高屋敷館遺跡」が、明日、9月21日(土)から公開します。

高屋敷館遺跡は、平安時代の環壕集落遺跡で、指定面積約30,000平方メートル(南北約500メートル、東西約90メートル)もの広さがあります。平成6～8年度の発掘調査の成果により、極めて重要な遺跡であることがわかったため、国道7号浪岡バイパスの計画路線を西側に迂回して、遺跡を保存することになり、平成13年(2001)に国指定史跡に指定されました。

史跡整備では、この遺跡の最盛期である11世紀代の遺構を対象に、竪穴建物跡・工房跡12棟については平面表示、柵列・土塁・壕跡については復元整備を実施しています。

## 1. 高屋敷館遺跡の見どころ

### 【土塁】

壕の外側に造られています。幅は2.1メートルで、総延長は約188メートルあります。土塁の外周や頂部に、防御を強める柵列のような施設は確認されていません。

### 【壕】

土塁の内側に総延長約214メートルにわたって掘られています。基本的には空壕と考えられ、雨水等は東側の大釈迦川へ流れ込むようになっています。

### 【出入口・柵列・門】

集落の出入口は、3か所確認されています。西側では土塁が虎口状に途切れており、橋脚のない木製の橋が架けられていたものと考えられます。また、その付近には、壕の内側に沿う形で柵列や門の痕跡が確認されています。

### 【竪穴建物跡】

壕で囲まれた内郭からは、10～11世紀にかけての竪穴建物跡が70棟ほど見つかっています。最も大きな竪穴建物跡(第23号住居跡)は、直径9メートル前後の規模で、床面積は約84平方メートルです。建物の中央に4本の支柱穴があり、壁際には多数の壁柱穴を配置しています。

### 【鉄器生産関連遺構】

ほぼ方形の直径6メートル前後の竪穴建物跡で、床面積は約40平方メートルです。この建物は、改築されており、炉跡が見つかることから、継続した鉄器生産が行われた施設であったようです。

## 2. 出土遺物

発掘調査では、皿や壺・甕などの器(土師器・須恵器)、土鍋・鉄鍋などの調理具、鉄製の鋏先・鎌・鉄斧などの農耕具、芋引金・紡錘車<sup>おひきがね ぼうすいしゃ</sup>といった繊維をつくる道具、ムシロを編むための菰槌<sup>こもつち</sup>などが発見されました。

また、建物に関する木材や鉄釘、埴塼<sup>るつぼ</sup>や羽口<sup>はぐち</sup>などの鍛冶の道具、土鈴や錫杖<sup>どれい</sup>状鉄製品な<sup>しゃくじょうじょう</sup>

メールマガジン「あおり歴史トリビア」(発行:青森市民図書館歴史資料室)

どの宗教用具の可能性のあるもの、穀物（イネ・オオムギ・コムギ・アワ・ヒエ）やマメ類なども見つかっています。

これらの出土遺物は、本年度中に青森市中世の館で展示する予定としております。

### 3. 公開開始日について

公開開始日の9月21日（土）には、高屋敷館遺跡公開記念として、10時から14時まで見学会を開催し、ボランティアガイドによる解説（10時と13時）や出土遺物の展示・解説を行う予定としております。是非とも足を運んでいただければ幸いです。



復元された橋や門、柵